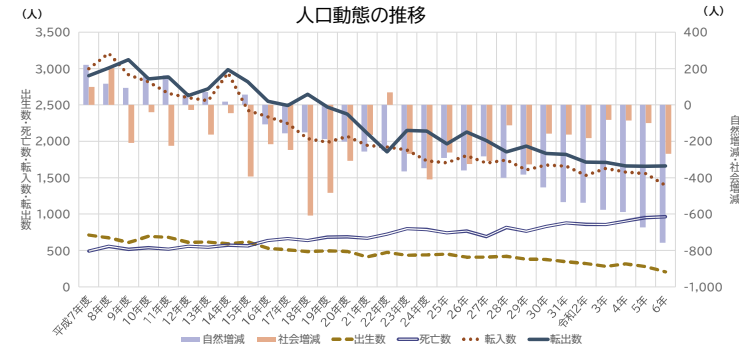
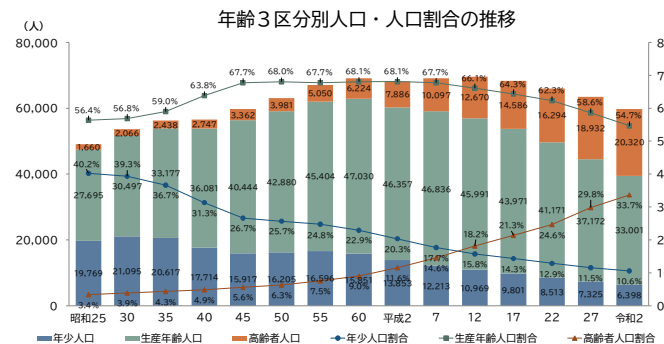


第3次十和田市総合計画策定に関する基礎調査報告書【要約版】

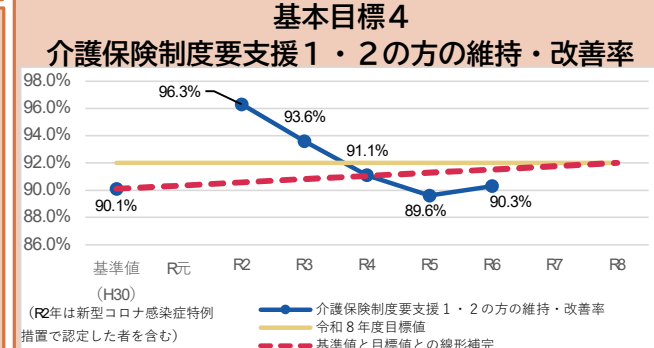
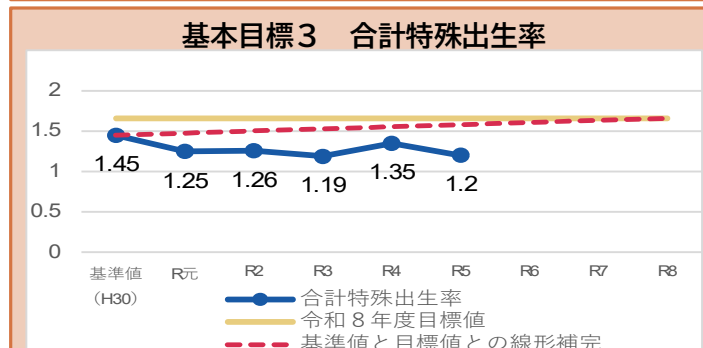
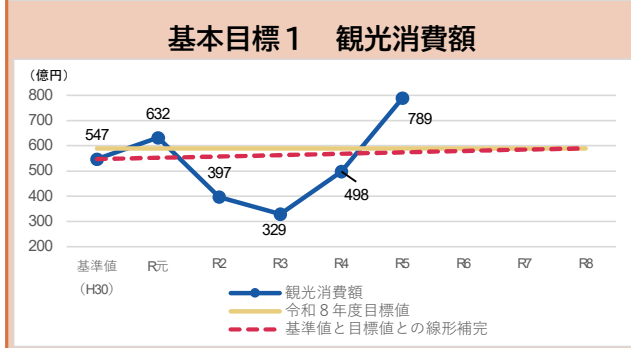
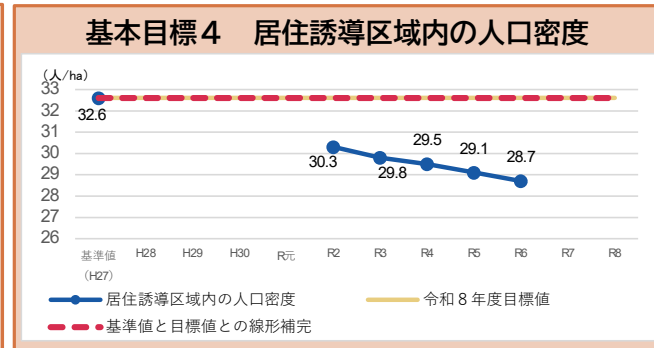
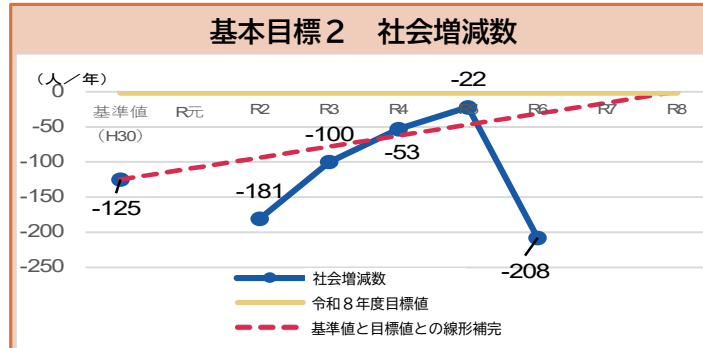
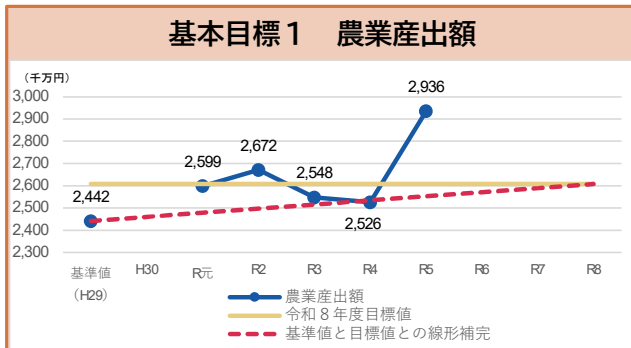
資料 1

1. 人口分析(概要版1～24頁)

- 人口減少は主に自然減の加速によるもので、特に若年人口の流出と出生率低下が大きな要因。また、年齢構成による影響を除いたとしても全国平均より死亡率が高い。
- 若年層を中心に人口移動が多くなっており、進学時は北海道・東北、就職時は関東への転出が多い。男性は大学卒業時に転出が多く、就職後に戻る傾向があり、女性は就職後や結婚・出産などライフイベントで転出しており、そのまま戻らないことが多いと推測される。



【参考】市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第3次十和田市総合計画統合予定）における人口減少対策に関する重要業績評価指標（KPI）の推移
仕事分野（基本目標1）は概ね順調だが、人口増減・出生率・地域愛の分野（基本目標2～4）では未達が見込まれ、施策の見直し等が必要。（下記は各目標の抜粋）

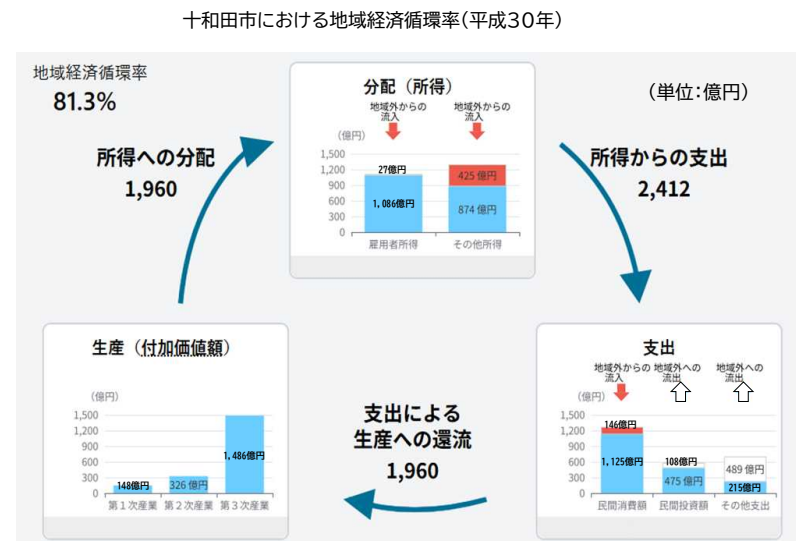
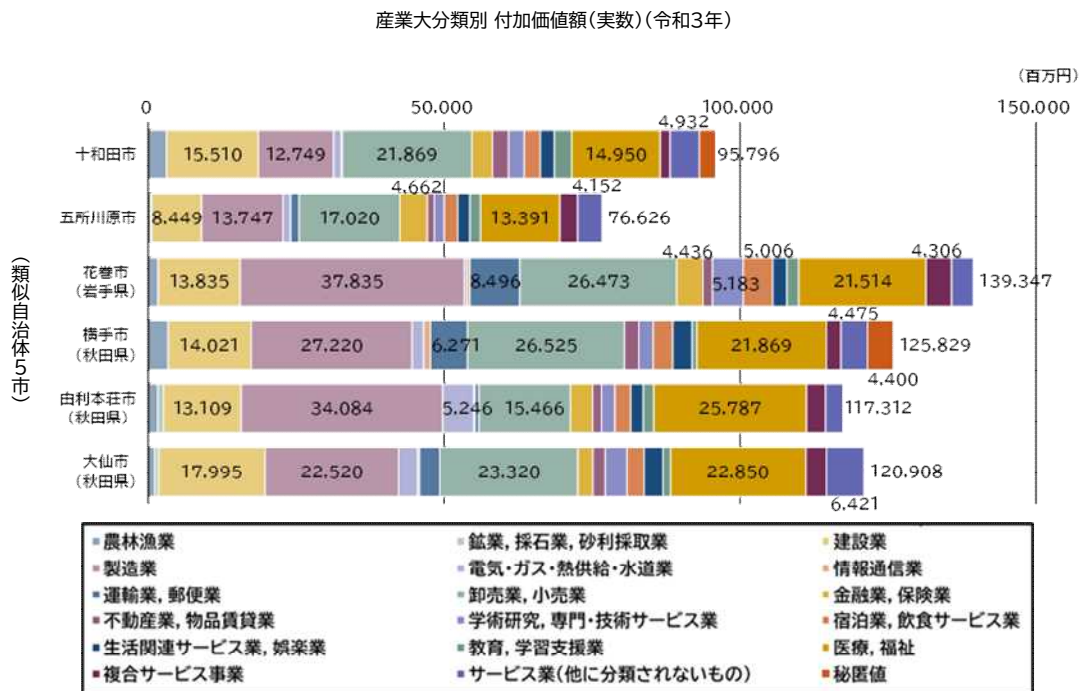


2. 社会動向分析(概要版25～35頁)

- ・日本社会は人口減少と少子高齢化が進み、出生率低下や若年層流出が課題。医療・介護需要増大、防災対応やDX推進、多様性尊重等が求められている。
- ・その中で十和田市も少子高齢化と若年層流出により人口減少が加速し、産業や地域活力の低下が懸念される中、農林業や観光資源などの強みの有効活用、子育て支援や移住・定住促進の強化、DXや市民協働を推進することにより、持続可能な地域社会を築くことが必要である。

3. 地域経済分析(概要版36～42頁)

- ・主要産業は卸売・小売、建設、医療福祉。農林業やその加工にも強みを持つ。製造業全体は弱いが、一部の金属製品や電子部品などには強みを有する。
- ・観光資源は奥入瀬溪流・十和田湖の自然、現代美術館が中心。中高年層は自然資源で集客、若年女性層はアート要素を取り入れた周遊施策、市街地の宿泊施設のターゲットであるビジネス客には市内飲食店へ誘導する周遊施策が有効であると考えられる。市外資源との連携や広域的な周遊ルート提案も必要。
- ・十和田市の地域経済循環率(※)は81.3%であり、人口や産業構造が類似している自治体の中では、比較的自立した経済循環を維持しているものの、100%を下回っていることから、外部所得に依存している状態であると言える。
- ・民間消費は流入超過だが、民間投資やその他支出は流出超過であり、域内調達・投資の活性化が課題。



※地域経済循環率とは

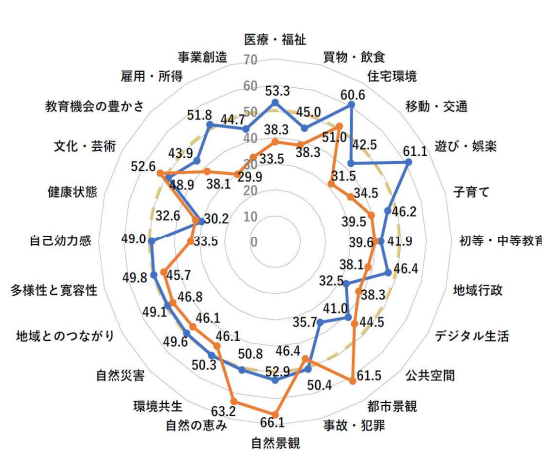
地域の生産額を所得額で割った値で、その地域がどれだけ自立して稼げているかを示す指標。例えば、観光客が購入するお土産が市外で生産されていると、市外の設備への投資につながり、市外へ資本が流出するため、地域経済循環率が低下する。

4. ウェルビーイング分析(概要版43～48頁)

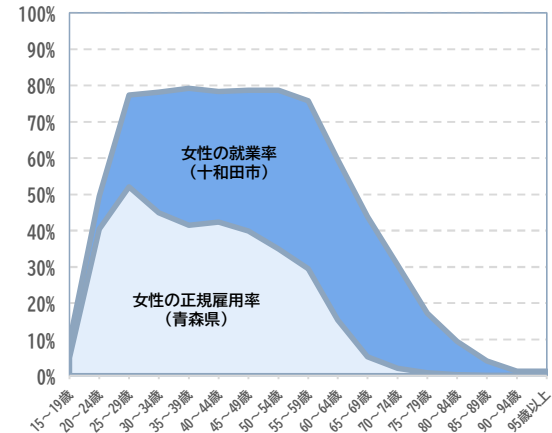
- ・ウェルビーイング（地域幸福度）指標では、全般的に主観指標（市民意識）が客観指標（客観的な状況）より低く、生活環境を示す指標は良好であるにもかかわらず、市民がそれを十分に実感できていない状態であるため、市民のまちへの愛着や誇りの醸成が課題といえる。
- ・強みは自然環境や景観で主観指標が高い。遊び・娯楽や基本的な生活環境・サービスは主観指標が低い。最大の課題は健康状態であり主観指標、客観指標ともに低い。デジタルの活用も同様の理由から課題。
- ・近隣市と比較して、出生に関する指標値が低い。女性の就業率については、M字カーブ（※）の窪みがなく、女性が働き続けている特徴がある。
- ・女性が働き続ける理由は、待機児童が少ない、就業場所がある、近隣に親族が居住している等の積極的動機や、配偶者の所得が低く働かざるを得ないといった消極的動機が考えられる。いずれにおいても、本市は仕事と子育てを両立できる環境が、比較的整備されていると考えられる。

※M字カーブとは
女性の就業率は、一般的に結婚、出産等により20代後半以降に一旦下がり、その後、育児が楽になってくる年代である30代以降に就業率が上がることで、M字の窪みができるもの。

令和7年度ウェルビーイング指標
(赤：主観指標、青：客観指標、黄：偏差値50)



女性の年齢別の就業率（M字カーブ）



5. 人口推計(概要版49～50頁)

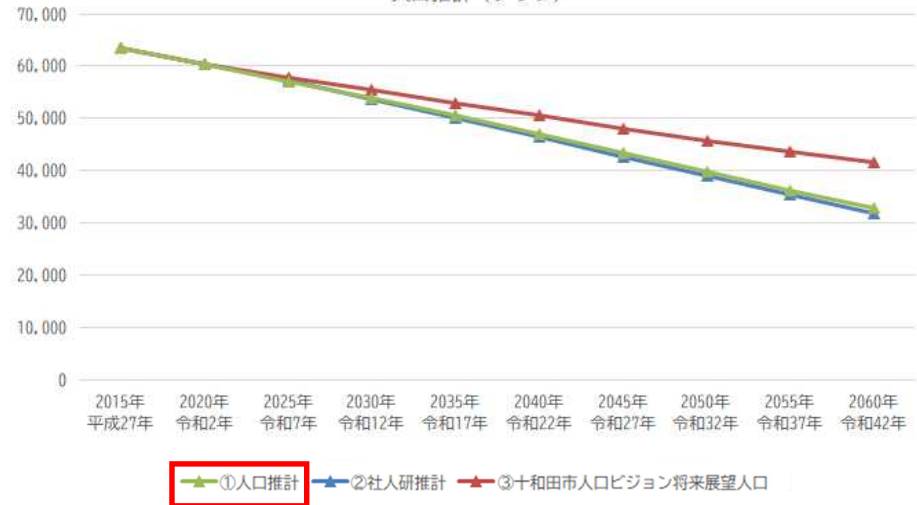
- ・本市における人口は、いずれの推計においても減少する見込みとなっている。
- ・人口減少という事態を正面から受け止めた上で、市の強みや特色等の独自性を打ち出しながら、安心して働き、暮らすことができる生活環境づくり、地域経済の成長、都市との交流、AIやデジタルなどの新技術の活用、広域連携等により、社会機能を維持していくことが必要。

(参考)

年度	①人口推計	②社人研推計 (R5.12)	③人口ビジョン 将来展望人口 (R7.1)
2025年（令和7年）	56,998人	57,201人	57,811人
2040年（令和22年）	47,076人	46,481人	50,489人
2050年（令和32年）	39,784人	38,968人	45,784人
2060年（令和42年）	32,794人	31,823人	41,579人

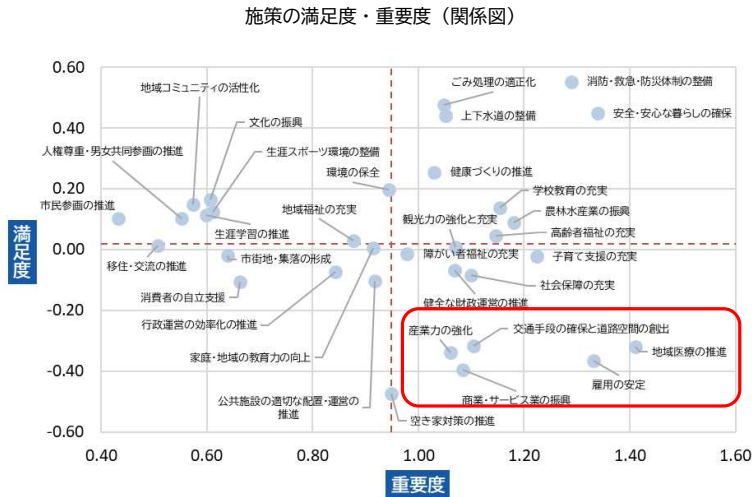
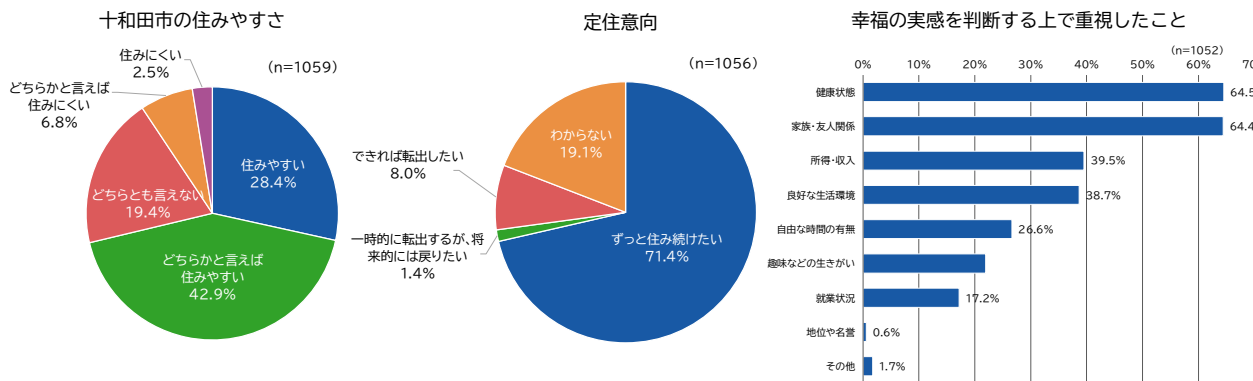
- ①今回の総合計画の策定にあたり市で実施した独自推計。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計方法に準拠し、十和田市の直近10年の出生率を加味して、将来人口を推計
- ②令和5年12月に国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が公表した令和2年国勢調査人口を基に推計
- ③市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンに掲げる将来展望人口。2040年までに希望出生率2.08を達成、女性人口の維持、2030年までに社会増減が均衡（±0）になるものと仮定した推計

人口推計（グラフ）



6. 市民意識調査(アンケート)(概要版51～89頁)

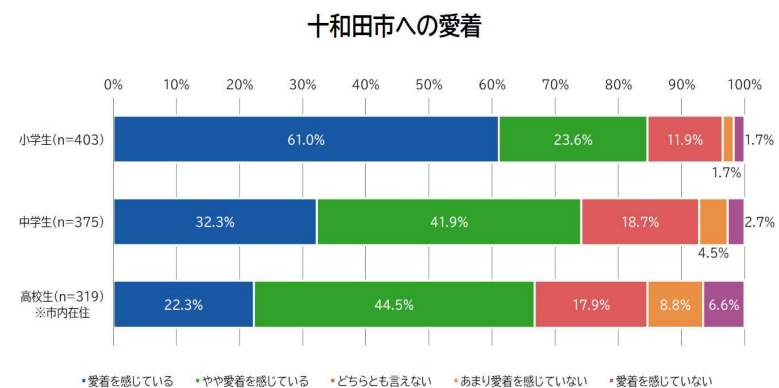
- <市民向け> 2,700件配布・1,070件回収(回答率:39.6%)
- ・「住みやすい」「住み続けたい」が約7割で、年齢が上がるほど割合が高まる。30歳代～40歳代が低い。
 - ・幸福度の調査においては、健康状態や家族・友人関係を重視する意見が多く、幸福を感じる要因としては、災害が少ないことや自然が豊か、家族・友人が近いこと。
 - ・満足度・重要度の観点でグルーピングすると、ともに高い施策は、防災や安全・安心な暮らしなど。
 - ・重要度が高いが、満足度が低い施策は地域医療、雇用の安定などとなっており、今後重点的に取り組む必要があると考えられる。



- <小学生向け> 424件配布・403件回収(回答率:95.0%)
- ・「好き」「住みやすい」が8～9割。将来「住みたい」も5割（「わからない」38%を除くと8割超）。
 - ・自慢できることは「十和田湖」「奥入瀬渓流」「官庁街通り」。
 - ・十和田市にしてほしいのは「遊園地をつくってほしい」。

- <中学生向け> 466件配布・375件回収(回答率:80.5%)
- ・「愛着を感じる」「住みやすい」が7～8割。「住み続けたい」も6割超。
 - ・10年後のまちの姿は「充実した子ども時代を過ごせるまち」。
 - ・これからのまちづくりに必要な視点は「少子化対策」「快適性」「にぎわい」「都市としての持続可能性」。

- <高校生向け> 518件配布・473件回収(回答率:91.3%)
- ・「愛着を感じる」が56%（市内在住は67%）。「住み続けたい」は44%。
 - ・卒業後に市外・県外に「出たい」が8割。転出希望先は県外が87%（うち東京が16%）。Uターンしたいは23%。
 - ・住み続けたい理由は「住みなれているから」「家族や友人が住んでいるから」。住み続けたくない理由は「十和田市以外に住みたいところがあるから」。



- ・「愛着」「住みやすい」とも、小学生→中学生→高校生と学齢が上がるにつれて低下する傾向がある。
- ・若者に対してもシビックプライドの醸成が必要。

<大学生向け>

対象1,122件・213件回答(回答率:19.0%)

- ・十和田市出身は5%で9割が県外。就職で希望する地域は市内が2%、県外が6割。
- ・「好き」は6割。好きなところは「自然がたくさんある」が6割。
- ・「定住したい」は6.5%。十和田市を離れた場合も関わり続けたいが4割。

<意見募集フォーム>

アクセス:335件・意見提出件数:40件

- ・意見の分野は「子育て・教育」「農業・商工業・観光」「健康・福祉」が多い。

意見フォームによる主な意見

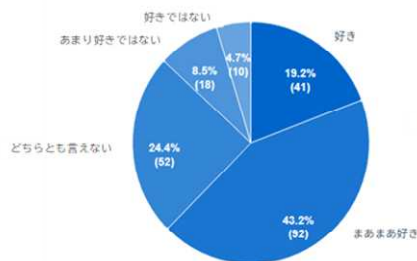
子育：奨学金返還支援の拡充、分娩施設不足の解消、屋内遊び場や親子施設整備、小中一貫校導入、子どもの権利条例制定
自然・観光・文化：奥入瀬渓流の保護と世界遺産登録、自然とアート連携による観光促進、街全体のアート化、キャラクター活用による土産品開発
交通・都市基盤：オンデマンド交通や循環バス拡充、道路・歩道整備、道路照明等設置、空き家対策と活用
医療・福祉：難病患者支援、高齢者や障害者が暮らしやすい環境整備、認知症や障がいの知識の普及
環境・生活：イベント時のゴミ捨て場設置、カラス等対策
経済・雇用：企業誘致による雇用創出、若者定住支援、農産物の高付加価値化
行政・制度：災害対応、書類への性別自由記述欄の拡充、公共施設利用手続きの簡素化

<職員アンケート> (概要版92~96頁)

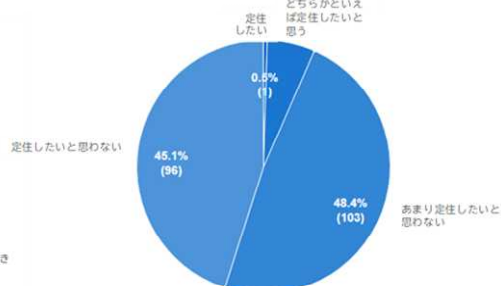
対象:421件・133件回答(回答率:31.6%)

- ・「魅力・強み」「課題・弱み」とともに多く挙げられたのが「産業振興」と「子育て・教育」。その他、「魅力・強み」は「環境」「安全・安心」「生涯学習・文化・スポーツ」、「課題・弱み」は「健康・福祉」「自治体経営」。

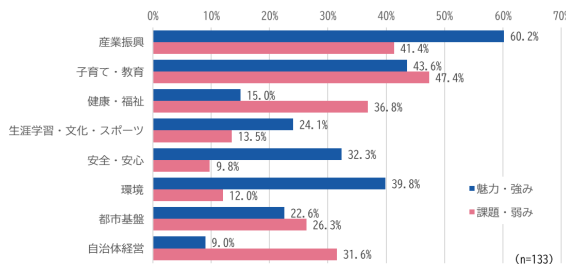
十和田市を好きか



定住意向



今後伸ばしていくべき魅力・強みと改善すべき課題・弱み



7. 市長インタビュー(概要版90~91頁)

- ・十和田市の将来像：「ひとりひとりの笑顔」につながる住みやすいまちづくり。高齢者や障がい者も働ける環境を整え、地域コミュニティ支援や伝統文化継承を重視する。広域的な人口移動を踏まえ、子育て支援を戦略的に充実させ、出産後の転入促進を図る。
- ・重点施策：観光資源を活用したシティプロモーションや産品販売による稼ぐ力の強化、奥入瀬渓流の博物館化など滞在型観光推進、水資源や交通アクセス、災害に強い特性を活かした企業誘致を進める。市民自身がまちの魅力を誇れるようにし、職員も発信力を持つことを目指す。

8. ワークショップ(概要版97～108頁)

(1) 市民ワークショップ

- ・開催日時：10月14日（火）18:30～20:30
- ・場 所：市民文化センター 第1研修室
- ・参 加 者：総合計画策定市民委員会委員含む市民 27名

各グループからのキャッチフレーズ



- ・酒と笑いと祭りと自然 いつでもおいでよ！十和田は永遠だ
- ・シビックプライド ～幸福度No.1のまちをめざそう！！～
- ・若（者）・教（育）・営（み）・豊（かさ） ハイレベルな田舎町
- ・自然体で暮らせるまち ～満ちていくとわだ～
- ・一人でも安心して死ねる街（ゆりかごから墓場までHappyに！！）

(2) 若者ワークショップ

- ・開催日時：10月15日（水）18:30～20:30
- ・場 所：地域交流センター「とわふる」中ギャラリー
- ・参 加 者：18歳以上30歳未満の市民及び若手職員市民協働チーム 30名

各グループからのキャッチフレーズ



- ・自然と食があふれるまち十和田
- ・～こころと自然がつながる街～ふるさと十和田
- ・自然と人が創る 食と祭典の十和田
- ・楽しい・美しい・住みやすい いっぱん住んでみるベ十和田
- ・安くて広くてあたたかい

・それぞれのキャッチフレーズは、基本構想原案の検討（将来都市像等）において、要素として取り入れております。